

あだち しげのぶ 足立 重信 (生年不詳～1625)

加藤嘉明かとうよしあきの重臣。美濃国(現、岐阜県南部)から来た人。年少の頃から加藤嘉明に仕え、朝鮮の役にも従軍し、文禄4(1595)年、加増により嘉明が松前に転封されると同時に松前城に移る。特に土木治水事業に精通し、松前城の拡張工事の際、伊予川の大改修を断行して水害を防ぎ、5,000町歩の水田を灌漑かんがいし、川の名も重信川と称されるようになった。次いで、関ヶ原の戦いの功により嘉明が20万石の大名となると勝山へ移転築城することとなるが、それに先立って石手川の改修を行い、城下町の土地の確保と新たな水田を開発した。また、開墾の奨励や年貢率の設定なども手がけ、松山藩初期の財政基盤の整備、充実に手腕を発揮した。

略歴

文禄4(1595)年	主君・加藤嘉明が松前城主となったことにともない、伊予国に入る。
慶長5(1600)年9月	関ヶ原の戦いにともない、西軍・毛利氏の軍勢が東軍・加藤氏の所領の接收のため伊予国へ来襲。抵抗し、応戦する。
慶長8(1603)年8月21日	新居郡上島山村(現、西条市)の年貢割り当てを定める。
慶長9(1604)年1月7日	伊予川(現、重信川)河原の開墾と居住を奨励
慶長11(1606)年5月10日	風早郡宮内村(現、松山市)に入作を奨励
慶長15(1610)年7月2日	風早郡宮内村から苧 <small>かかし</small> (麻の一種)を買い上げる。
慶長18(1613)年3月5日	風早郡二神島(現、松山市)の竹木の育成・伐採についての取り決めをする。
慶長20(1615)年4月22日	新居郡における人足割り当てを定め、徴集する。
元和2(1616)年4月11日	風早郡宮内村の年貢率を定める。
元和7(1621)年7月12日	風早郡宮内村から苧を買い上げる。
寛永2(1625)年3月18日	新居郡大浜村(現、西条市)の年貢率を定める。
11月17日	病気のため永眠。墓所は、松山城と石手川とを臨む、松山市御幸の来迎寺

〈関連図書〉

- ・松山城編集委員会『松山城』松山市役所 1970年
- ・足立重信公三百五十年祭実行委員会『足立重信と松山』松山市役所 1974年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 近世上』愛媛県 1986年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年

〈ゆかりのある場所〉…(P275, 45)